人キリストに在るときは新に造られたる者也。舊は去りて皆新しくなる也。

第二巻第九號

『萬事新也』(英文、邦文)　社説
使徒行傳研究(三)(邦文)　マクドナルド孃
凱歌(邦文)　植村正久君
東京基督教女子青年會發會式祝詞(邦文)　津田梅子女史
　伯爵 大隈重信君
　江原素六君
　本田庸一君
米國女學生生活(三)(邦文)　矢島楫子女史
歓待　河井道子女史
新年(英詩)　デアリング夫人
シリア客の物語(續き)(英文)　ダブリユー、エー、ナイト
雜錄＝東京基督教女子青年會發會式概況。同會役員撰擧結果報告其他。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

關雜誌也。

『女子』は一年分郵稅共金五拾錢、一部郵稅共金

す

督教女子青年會はすべて青年女子の生理、社交、靈性上の發達を計るために設けたる機關也。

督教女子青年會中央委員左の如し

委員長　ホイットマン孃

幹　事　ルキス孃
津田（梅子）孃
ウエスト孃
花井夫人
ワージントン孃
ヘルム夫人
フイシヤー夫人
佐藤（錦子）孃
河井（道子）孃
ハミルトン孃
フエルプス孃
ザーフルー孃
小崎夫人
エリス孃
ソーパー孃

主　事　マクドナルド孃

明治三十八年十二月廿八日印刷
明治三十九年一月一日發行

定價　一冊四錢　郵稅五厘
一年分（十二冊）郵稅共五十錢

東京市麴町區土手三番町十五番地
發行兼編輯人　エー、シー、マクドナルド

東京市京橋區築地二丁目二十番地
印刷人　河本龜之助

東京市京橋區築地二丁目廿一番地
印刷所　株式會社國光社

聖書研究

ことを欲せざる時に、往々つらしと思はるる方法をもて、彼等を懲らし給ふ。かくて今回の迫害は、使徒等の信仰に著しき鍛煉を與へたり。

使徒行傳（三）

エー、シー、マクドナルド

五、大迫害—教會發展の第二期——教會離散。

使徒行傳八〇一——十二〇廿五。

ポ及びサマリアに於ける福音。

一〇八。使徒行るはじめの七章は、主の命令が、當初いか實行せられたるかを示すもの也。『爾曹はエルに於て、我が證人となるべし』。されど教會の發急激にして、その事業また頗る見るべきものあがために主の命令を忘却せんとする危地に陷れ徒等はその事業をエルサレムに於て始むべきも此處にのみ止まる勿れと命ぜられたり。然るに教會を離散せしむべき大迫害をこれに加ふるこし、これをして更に偉大なる重務あることを悟彼等を懲らし給ふ。かくて今回の迫害は、使徒等の信仰に著しき鍛煉を與へたり。

一〇八を再讀して、エルサレムの後に、ユダヤ、サマリヤに於ける彼等が第二の計畫に注意すべし。而して今、八〇五——八を讀むべし。使徒のあるものはエルサレム附近の地方に離散して、ユダヤに於て道を説きしが。この時ピリポはサマリアに行けり。このピリポといへるは如何なるものぞ。二人のピリポあり。一は主の弟子——馬可傳三〇十八——にして、他は執事ピリポ——使徒行傳六〇五——をいふ。使徒行傳八〇一を見れば、この二人の中、何れかサマリアに行きしやを明かにするを得べし。使徒等はエルサレムに留まれるを以て、サマリアに行きしは、即ち執事ピリポなりしことを知るべし。

サマリアに於ける彼の働は、結果甚だ著しきものありき。八〇六——八。これより數年前、サマリアに道

おのれを稱してメシヤといひ、而して多くのも
し彼を信ぜしめたることは、同地の人々が、尙
記臆せる處なりしならん。兎も角、サマリア人
の福音をも歡迎したりしかば、その結果とし
邑に大なる喜ありき』。
ど彼は間もなく、この成功ある働を棄てざるべ
るに至れり。八〇廿六。ガザの地は、エルサレ
南に方りて、地中海の濱に在り。主の使者のい
如く、この路は野にして、遠く繁華の地を去れ
マリアに於ける彼の働は、かく目覺ましきもの
、多くの人々は、熱心に彼の言を聽きつゝあ
、何の理由ありて彼はこの地を去らざるべから
や、今その事業を廢するは、極めてその期にあ
しが如し。されどこれ主のみ聲也。神の全智な
れるピリポは『起ちて行けり』。八〇廿七。從順
の守るべき第一の規典也。今八〇廿七—卅九を

廿六』『サマリア人の諸邑』(廿五節)『この路は
也』(廿六章)とを對照し見よ。
間に依りて。主はその使者をしてエテヲピア
に現はれて、自ら彼に解かしむることをせず

サレムに上れるを見れば、猶太敎の信者なりしは明也
いかに聖靈がピリポの行動を導くかを見るべし。廿
六、廿九、卅九節を再讀せよ。神が我等に爲すべき働き
を與ふる時に、彼は終局に至るまで我等を導きて、決
して棄て給ふことなし。約書亞記一〇五。エテヲピア
人はピリポに敎へられんことを欲せり。八〇卅—卅一
ピリポもまた神よりこゝに遣はされたれば、彼に敎へ
んことを欲せり。八〇卅五。かくて神に導かれたる二
人の者は、正しく同一の目的を有したり—即ちイエス
キリストこれ也。この會合の結果如何、卅六—卅八及
び卅九節を見るべし。寺人はよろこびて、またその路
を往けり。我等もまたキリストによりて救の道を知る
ことを得たるをよろこぶ。約翰傳十五〇十一。

(ロ)神の働き給ふ道。

一、外面の災禍によりて。八〇一。

二、一見狹小なる傳道地に働者を移して。八〇廿五

任に當るものなし されど神のみ心は、我等が思ふ所と
異なりて、彼はその人を敵の陣營より携へ出で給ひぬ。
然かもその人は敵軍の首將にてありき。げにサウロの
悔改は、敵變じて却つて友となるの奇觀を呈したり。

人間に依りて。主はその使者をしてエテヲピア人に現はれて、自ら彼に解かしむることをせず却つてピリポを起して、從來の働を止め、遠くエヲピア人のもとに行かしめたるは何故ぞや。我等は聖書を通じて神の働き給ふ道の、常にかくの如くなるを見る。使徒行傳に於ても、また屡々かゝる塲合あるを知るべし。神はおのが事業を爲すに、常に人間を用ゐ給ふ。よろこんで神に用ゐらるゝものは、げに福なるかな。

、大迫害者の悔改。

十八。八〇一。九〇一―二を讀むべし。今やキ最後の命令の後半に着手すべき時機漸く到來し。一〇八を讀むべし。『地の極にまで我が證べし』。この塲合に於て、主の陣營を率ゐて、罪服すべき人物は果して誰ぞや、ペテロなるか、るか、はた又ヤコブなるか、使徒中誰かこの然かもその人は敵軍の首將にておりき。げにサウロの悔改は、敵變じで却つて友となるの奇觀を呈したり。その茲に到りしは、確かに彼が天の光明に導かれ、かつ擧げられて天に昇りし主の召命に覺醒したるに因る。かくて彼もいよ〳〵神に選ばれて、世の人々を導くべき使命を蒙れり。九〇三―九、十五、十六を讀むべし。サウロが初めて主のみ姿を認めし時、彼その前に起つこと能はずして仆る、而して主のみ語を聽きて、感激措く處を知らず、直ちにその命に從ひぬ。六、八節を讀むべし。主の敵たりしサウルは、地に仆れ、而して彼は主の友となりて再び起ちぬ。爾來彼はすべての事を糞土の如くおもひて、只管主の命を實現せんことを勉めたり。腓立比書三〇七、八。

この塲合に於ても、神はおのが事業のために、人間を用ゐ給ふことを見るべし。九〇十―十九。神がバウロを用ゐ給ふに先ち、バウロは二個の經驗を得たり。第

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して祈禱を事とするもの也。アナニアが主の聖しむるに名を得たるパウロを尋ねよと命ぜられ疑逡巡したることは、固より怪むに足らず。九十四を讀むべし。ダマスコの信徒が、この教會者を迎ふることを大に懼れしや、また固より疑八〇三を再讀すべし。アナニアはかく怖れしにず、主のみ聲を知りて、これに從へり。然も彼明かに主のみ聲を識り、主のみ旨を辨へたるがこれ迄敵としたるサウロに對して、呼ぶに『兄名を以てせり。九〇十七を讀むべし。我等は主て兄弟たる也。馬太傳廿三〇八—十を讀むべし。人、すなはちキリスト也。爾曹はみな兄弟也』。叫は直ちに凡て舊來の交友と絕てり。九〇廿。人の主に事ふることを欲せざりき。馬太傳六〇かくの如く、パウロの性格に、非常なる變化をしを見て、ダマスコの人々は皆な驚きあへり。

の變節を憤れり。九〇廿三—廿五を讀むべし。エルサレムにある使徒等は、初めパウロを疑ひて、彼は表面悔改せるが如く裝ひ、使徒等の內幕を窺ひ得て、以て彼等を責むべき證據を獲へんとするものなりと疑ひぬされど雅量に富めるバルナバ（四〇卅六、卅七。九〇廿七。十一〇廿二—廿四）は、パウロを信じて、教會に紹介するの勞を執れり。かくてパウロは懼るる處なく、エルサレムに於て道を說き、その生命をも危うするに至りて、遂に故鄉タルソに送られたり。

ある人使徒行傳に關する著書に曰く、主の在生、死去、及び復活を除いて、パウルの悔改の如きは、世界に於ける最大の出來事なりと。廿二〇三—廿一。廿六〇四—十九にパウロの悔改に就いて、彼が自ら述べたる處を見るべし。パウロが力を得たる秘法は、廿六〇十九に示さる。神はすべての事につけ、おのれに從順なる人を求め給ふ。

我英國は神の支配し給ふ模範國たらんことを。君よ我等茲に心を傾けて、專心一意、國家の爲に盡すべくんば、詩四十六篇を味ふを得ん云々」と。斯く議會召集の前に於て八十五篇を讀み、四十六篇を以て國民の靈

凱歌

十七日東京凱旋軍隊歡迎會を擧行するに際し、植村正久先生に於て、詩篇第四十六篇を選みて、意味深遠、用意周到なる設けらる、今茲に其大意を掲げん。（河井記）

軍總司令部凱旋祝賀會と云ふので、我等の喜、又神に感謝すべき日であると同時に、深く日である。抑々詩篇の四十六篇は、かゝる場れたもので、イスラエル人が凱旋した時に歌である。四十六篇と八十五篇は緣故が深い。になつた「人生の詩篇」と云ふ本があるが、より詩篇によつて神の惠を得た人々の經驗談ある。八十五篇の所には、クロムエルの事が書、千六百五十三年、彼が第二回の國會の開かして、八十五篇を朗讀して曰く、「昨日予は諸を促すべき詩篇を讀めり。今日は只其一部にを得るのみ。諸子之を讀め。予は切に願ふ、

は詩四十六篇を味ふを得ん云々」と。斯く議會召集の前に於て八十五篇を讀み、四十六篇を以て國民の理想を鼓舞し、神に向ひて進むことを示せし事は、實に床しい限りである。

四十六篇はルーサの歌と稱されて居るが、彼は「萬軍のエホバは我等の楯なり、ヤコブの神は我等の櫓なり」と絶叫しながら、精神界に於て奮戰した。讃美歌四百三十六番は彼の作であるのを、トーマス、カーライルが英譯したのである。萬軍のエホバとは何であるか、今日凡そ一二萬の兵卒が上野公園に行く、整々堂々たる樣を觀るは、實に壯快なものである。大山東郷兩大將及び五十萬の同胞の勇戰殊功に連想さるゝは、火藥力や、武力であるが、詩人の歌つたのは、今日の軍隊よりも大なる軍隊、否其よりも意味深い者を稱へたのである。即ち萬軍とは地の軍隊に非ずして、天體の意で、森羅萬象の事である。人を手足の如く使ふのは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

如く、萬事を自由自在に指揮し給ふが故に、彼の大將にまします次第である。吾人には天地萬が判然しない、只其黑幕、其基礎を支配し給ふ即ち大なる神であると云ふ事丈は分かる、併なくば、萬軍のヱホバも、我等には却て失望落である。何故と云ふに、人間は骨折つた處で何のない、人生僅に五十年で、奮勵するも愚なりとならなく考へて仕舞ふが、神あることを信仰し依頼して渡世すると、實に幸福な身となる。雷はしめ、恐怖の念を起こさすのが普通であるが、あると雷を聞くにつけこれは神の聲で、我等を印しであるから、安心だとの思を抱かせる。萬軍のヱホバは、我等と偕にして我等に同情我等を助けくださることを知つて、勇氣が滿のである。人は誰でも、鐵と血とあれば、軍隊るべからずと思ふがイスラエル國民が凱旋した

い族にイスラヱルと云ふ立派な名さへ與へり
れば榮光は天にのみ輝くものではない、人間
こばるゝばかりの神の榮光や、恩惠が充滿し
斯くてこそ、ヤコブの神は我等の櫓なりと歌
等も此の心を以て、草木を見、人類を思ひ、

世界には望遠鏡を用ゐて感ずる時と、顯微鏡に依つて感ずる時とがある。神は日月星辰、森羅萬象を將ゐて萬有の上に支配し給ふかと思ふと、又ヤコブの神、即ち一個人の神である。神の事は自然界よりも、人間界に於て遙に明了に顯れて居る。天體から神を認むる事は易い。ヤコブの神とは何の意ぞ。ヤコブは實にずるい人間、僞人、兄を騙し、父を騙し仲々癖の多い人物であつたが、不思議にも神を恐るゝ處があり、又志望と理想とを持て居つたから、現在の事にのみ屈託しないで、永遠に目を留めた。それで次第々々に導かれて、或は淋しい原野に、或は辛苦困難多き奉公の位地に立つて、神我を守り給ふといふ事を悟つたのである。彼は又故鄕に歸らうとした時、己れは昔し、杖一本で故鄕を離したが、神は實に難有い御方だと思ひ案じて居る處に天使と相撲を取つたとある。それは熱血を注いだ祈をしたのである。神は此の癖多きヤコブを導き、訓練し、

しく、世界の列強の中に加はつた今日、我國民の守
を占むる婦人は最も其地位を高め、ます／＼各方面に
向つて進歩する樣に謀らなければならない時節となり
まして、隨つて現今私共女子の責任はます／＼重くな
つた譯でありまする事故、未來の國民の母たる青年女

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はなしの神の榮光や、恩惠が充滿し
斯くてこそ、ヤコブの神は我等の櫓なりと歌
等もこの心を以て、草木を見、人類を思ひ、
に祈らねばならぬ。今日我等の凱歌は四十六篇
とせば、我等の勇氣には根據があつて、愉快で
何卒全國民をしてこの高い思想に向はしめ、御
行致し度いと思ふ。

祝詞

京基督教女子青年會發會式に於ける演説祝詞を筆記し左に掲ぐ。

發起者總代　津田梅子女史

共有志の者が發起致しました東京基督教女子青
といふものを組織し、今日其發會の式を擧げる爲
に皆さんの御參會を願つた次第でございます。
邦は大戰爭の後、殊に此未曾有の戰捷の結果と
向つて進歩する樣に謀らなければならない時節となりまして、隨つて現今私共女子の責任はます〳〵重くなつた譯でありまする事故、未來の國民の母たる青年女子の精神上、智識上、體格上、社交上の進歩を謀ることが最も必要なことでござります。

此頃は隨分各種の婦人團體の設けはございますが、基督教婦人の一大聯合で、此種類の目的の會は是まで組織されて居りませぬ、男子の方は、既に御承知の通り青年會が十數年以前から設立されて、此會が如何に數多の方面に於て、青年の爲め有益な事業をして居るか是れは皆さんの能く御存じの事でございますが、どうぞ女子に於ても、此樣な事業を擔任いたしたいと
希望でございます。

殊に此戰爭後は教育のます〳〵普及し、ます〳〵進歩するに連れて、女子の學生は盛んに都會に集つて參
此時節に女學生を保護し、慰め行く此會の事業は、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

益なるものとなるやうに致したいといふ熱望
ますから、どうぞ皆さん、之れに御賛同下す
分御盡力あることを希望いたします。

伯爵 大隈重信君

う云ふ結構な御催しを以て此庭園に斯く御集り
ましたのに、不幸にして二三日以前から病氣に
唯今も矢張り床に居る有様であります。甚だ遺
りますが、今日此處で皆さんに御目に懸ること
ませぬ。併し此會が組織になりまして、また公
りでもあり或は演説會でもある場合に機會を得
は、皆さんに御目に懸つて御話し申す所があり
。(櫻井氏代述)

一千萬人以上[illegible]
働き、消極に無用の費用を節しましたばかり
年に二億三億の金を拵へることは、敢て難い
でございませぬのです。然れ共それはかりでは
[illegible]

に對し、一言の祝辭を述ぶることを榮譽とする者であ
ります。實は甚だ迂濶でございまして、歐米各國には
既に基督敎女子青年會のあることを承知しませぬので
ございました。然れ共どうしても青年婦人の團體が無
ければならぬと云ふことを偶然に考へまして、本年夏
頃から青年と云ふ題で話をする時には、必ず男女青年
と云ふ二字を用ゐ來つて居つたのでございます。其意
味は少なくも二つある、一は物質上に付て、一は心靈上
に付て叫んだのでございます。何故ならば彼の七十年
孛佛戰爭の後、佛蘭西は五十億の償金を拂ひました。
其拂ひました所の創痍を癒すにも、婦人の力が非常に
多かつたと云ふことを屢々聞きましたのであります。
然らば我國戰後の總ての目的を完成しまするには、獨
り男子のみならず、婦人も共に力を盡して貰はなけれ
ばならぬと云ふ希望が切になつたのでございます。即
ち十六歳以上三十歳以下の青年男女を集めましたなら

[illegible]る奮鬪を要さねばならないのでございます。今日此所
で大隈伯爵に御目に掛ることが出來、又女子大學校長
成瀬仁藏君に御目に掛ることが出來ましたならば、私は
丁度好き折に、曾て私の申しました事を諸君に御披露

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

…でございませせぬのです。然れ共それればかりでは
…ませぬ、日本前途の國民の品性を陶冶する事、
…日本に偉大なる人物が出なければなりませぬ
此偉大なる人物は何れの處から出るかと云ふ
大に考へなければならぬのです。嘗て貴族院
…して、大學より人物が出ないと云ふ攻撃論に
時の文部大臣菊池大麓君は答へて曰く、大學
…る學術を研究する所にして人物を出す所では
物豪傑と云ふ者は學校教育に於て出來るもの
云ふことを斷言されたのであります。然らば
人物或は豪傑は何れの處より出るかと云ふこ
ませぬでございました。即ち人物豪傑が何處
ますものならば、菊池大麓君の言はれた通り
…いかも知れませぬ。然り、人物豪傑の出處は確
…でございます。家庭は即ち婦人方の權内に屬

成瀨仁藏君に御目に掛ることが出來ましたならば、私は丁度好き折に、曾て私の申しました事を諸君に御披露しやうと思つたのでございます。曾て成瀨仁藏君が女子大學を設立せられんとする時、大隈伯と共に私は帝國ホテルに於て此賛成演説をしたことがござるので、其時に男子ばかりの進歩では到底圓滿なる國家の發達は出來ない、どうして女子も共に智力の進歩を要すると云ふことを申しましたのです。男子ばかり如何に發達しても女子が伴はなければ、完全の効を奏しないと云ふことを斷言しました。何故ならば、其頃に私の親が鷄を飼つたのであります、どんな高い園をしましても、鷄が園を飛出す、餘所の畑を荒して屢々小言を受けました。私の父は飛ばないやうに羽を切りましたのです。切りましても暫く經つと云ふと短いなりに矢張り飛んで隣の畑に參りました。其中に私の友人で、基

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

せうと云ふから　とうするかと思ふと　片方
いです。さうしまするといふと、片々で（斯ん
あります）どうしても飛べない。それで如何に
長くとも片方短かければどうしても飛べないの
故にどうしても兩方伸びなければいかぬ。丁度
、如何に男子の智慧が發達しても、奥様が是で
が無い。それでありますから、私の言葉に、私
大學と云ふものに付て贊成すると申しましたの
ます。併ながら今日は女學生諸君が、知識に於
すに優る所の發達を致しました、けれども若し
相互に發達しましても、男の理性の根底と女の
根底とが違ひましたならば、却つて知識の増し
圓滿なる結果を得ることが出來ませぬ。即ち男
基督を神の子とし、救主とする所の此理想の上
を致しましたならば、相互に圓滿なる麗はしき
得るだらうと思ふのであります。それゆへに教
し、男女共に力を進め、基督教に依つて、男女

面に發達しましたが、國民の理性を統一することは、
殆ど出來ない有様でございます、殊に西洋の教育者の
申しまするには、人は生れて五歳まで、賢良なる母に
訓育されまするならば、男女共に、如何なる惡魔の中
へ入れても決して墮落しないと申します、それと同時
に、大凡五歳の頃まで迂濶なる母親に仕込れたる者は
生涯確實なる所の理性を持つことは出來ないと申しま
す、是は事實でございませう、那破侖第一世が帝位に
即きまして、其政治を著々と組織的に、施行する時に
大臣は那破侖に向ひまして、陛下が兵學校に於て兵學
を學ばれたることは、臣等が熟知する所でござる、併
し、陛下は何れの學校で政治學を御研究遊ばしたと聞
きましたら、我が母が朝から晩まで、總ての仕事を嚴
然と秩序を立てて處理したことが、即ち我が政治を爲
すに嚴然たる秩序ある所以である。我が政治學は我が
母の家庭であると答へたことがございます。今後日本

……結果を得んとするには、男子は素より力を竭
が、其男子の源たる婦人諸君の御盡力は、特

あるに際し、茲に全員を代表して之を祝し、併て將來
の隆盛を祈りて已ます。敢て蕪辭を陳して祝詞に代ふ。

結果を得んとするには、男子は素より力を跟が、其男子の源たる婦人諸君の御盡力は、特に底となるべきでございます。故に斯の如き麗組織せられる事に付て、私は男子の青年會のて、滿腔の喜びを以て、今日の御盛會を祝しくは神の御恩寵に由りまして、前途益々大な奏せられんことを希望致します。

日本基督教青年會同盟中央委員長　本多庸一

の趨勢に鑑み、基督教青年會の必要を感じてし、爾來經營十數年、優渥なる天恩の下、着告げ、今や普く社會の認識する處となるに至恂に感謝に堪へざる所也。此時に當て同志諸りて、基督教女子青年會設立の擧あり、生等宜に適せるを認め、將來女子青年に及ぼす効

の隆盛を祈りて已ます。敢て蕪辭を陳して祝詞に代ふ。

基督教婦人矯風會長　矢島楫子女史

今日は此好い時候、好い天氣に、此の如く盛大な御集りを拜見いたしまするとは、實に此上も無い結構なことでございまして、何と御喜びの意を表して好いか短い語では出來ませぬのでございます。今日の御集りは、基督教女子青年會の名の下に御集りを御開きになりましたものでございまして、特別に御目出度いのでございます。今日は實に國家多事の秋で、殊に戰捷國の日本として、婦人の集りは少くはございませぬけれ共、又殊更に基督教女子青年會と申しまするその適當な御集が、此處に組織されまして、誠に御目出度いのでございます。御目出度いに付きましては、之を組織いたした上に、これを成長させなければなりませぬの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して居りまするけれ共、さうまだ大きいもので
ませぬ。けれ共兎にも角にも一つの會に從事し
ますると、其從事して居る人の進歩の度は、自
ら云ふ會に從事して居ない人と較べて見ました
餘程の相違があるのでございます。それは其
ざいます、人間として此世に立つて居ります以
男も女も其職分を充分に盡さなければなりませ
請若い中は、學校に在つて勉强すれば其方に忙
には違ひございませぬけれ共、其忙しい中に、
は社會的のことに心を用ゐ、力を盡すことを致
ならば、必ずその學びたるところの學業の進歩
良いといふことは、是は當前のことでございま
う云ふ譯でございますから、故らに私は別段の
申しませぬでございますけれ共、若し斯う云ふ
設けられました以上、何か一つその中に働きが
はなりますまいと存じます。そればかりで無く

女子の爲に家を定められることを、生れた途端に、其親たる人達は考へるのが、昔も今も同じ人情でありま す、此集りが組織せられましたならば、其家が一つ定りませぬければなりませぬと思ひますが、それは初に於て覺悟して掛らなければなりませぬ。其事を致しまするには隨分此會を創立するところの人、從事するところの人は、財政のことなどに敏捷く、充分に運動をすることに努めるのが大切であると思ひます。會の事業も、總て其設備が出來てこそこれが長く行はれると申すのであります。夫故に今日私は、どうも言ふに言はれない程の喜びを以て、日本帝國のために、この青年會のために、心からの御祝ひを申します。

日本國女學生生活（三）

藻鷗草

生が紫、二年生が赤、一年生が青と云ふ工合で、運動會等で競走があると、それは〳〵、此四色が入亂れて、銘々自分の色を勝たせたがるのが人情です。誰が級の色を定めるかと云ふと、先づ本年卒業せし組の色を、新級生が承け繼ぐのでありますから

米國女學生活（三）

河井道子

初年級

…軍凱旋祝賀歡迎會等の塲で、第一目立つのは…會、諸校から押立てゝ來る、風に飜り、雨に萎…である。併し學校の旗は、略ぼ大同小異で、紫…に白字を出したのが多いから、色で各學校を…ことは六ケ敷いが、米國では、學生が校旗に重…事、恰も軍隊の其聯隊旗に於けると同じく、…を用ゐて、それを旗章として居るから、黑黃…リンストン大學、黑赤なればハーバード大學、黃…ればエール大學と、一見して別る。女子大學も…校は白黃を旗章として居るが、又一校にして…が組の旗と云ふものを以て居る。假令ば四年

は色が入亂れて　銘々自分の色を勝たせたがるのが人情です。誰が級の色を定めるかと云ふと、先づ本年卒業せし組の色を、新級生が承け繼ぐのでありますから若し紺の組が今年卒業すると、初年級が其色を相續して、四年間通すので、何時も四色が循環して居る。然れば如何して級旗が出來るかと云ふと、其れは三年級が初年級に贈與するのであります。

開校後十數日目に、左の如き招待狀が飛來つた、

來土曜日（何日）午後七時より運動場附近に於て、御入學祝賀會相催し度候間、御來會の榮を得度、此段御案内申上候也。

一千九百〇二年級一同

一千九百〇四年級　御中

茲に說明の必要は、何故一年生御中、三年生よりと記してないかとの事であります、平日は四年生（シニヤー）、三年生（ジユニヤー）と呼んで居ますが、公會に於ては各級の卒業する期年を以

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

級は千九百〇九年級と云ふが例であります、吾
九百年に編入されたから、千九百〇四年級と呼
ぶです。
の此招待があつてから、皷旗唱歌が必要だとい
ふ吾級一同、米國國歌の作直しを熱心に稽古した
日になると、今日を晴れと着飾つて、半時間も
運動場近邊に行つたが、別に何の準備もしてな
た々々と喋々して居ると、俄然向ふの列樹路か
炬が燃えて、來る〳〵、三年生が列を正して、
紀の服装でやつてきた。級の幹事が白馬に跨り
化して、四人の傳令使（ヘラルド）を先に立て、天下を風靡
るやうな、權威を以て進んで來た、後には武士
女官あり、草履取に煤掃屋、花賣に僧侶と、種
の人物が、火炬の光で好く分かる。これから何
るかと思つて居ると、此一隊が仲々我等の前に
ない。そこで我々も列の後に從つて行くと、終

様にと、至誠は在學中忠誠に讀〇ことを定
。吾々が業を卒へて、四方に離散するに際し
組の代表物を幾線にも切つて、銘々一本宛紀
て分配しました。折にふれて最早地質を失つ

皆の服装が一層好く見られました。一同坐に就くと、
茶番狂言で抱腹絶倒して居る最中、一小女に假扮した
者が、手に如露を以て、舞臺の中央なる鉢に水を注ぐ
と。見るが中に、ずん〳〵植物が生長して、二分間中
に淺黃の地に、あり〳〵と一千九百〇四と字が白で讀
まれた。三尺餘の大旗が花咲いたので、覺えず滿堂拍
手喝采で破るゝばかりの噪ぎでした。さあ今こそ兼て
練習した唱歌の時ぞと勢込んで歌ひ出したが、餘り調
子が高過ぎて、多數の者には聲が出ない。只ヒイ〳〵
いつて居る。僅に數人のものが、級の名譽は我等が双
肩に懸れりとでも思つたのか、畢生の熱血を注いだ金
切聲で、キイ〳〵歌つたのは好いが、戸外で歌ふのだと
預想して作つた歌なので、いひ出しの文句が、「星の光
に我旗見ずや」と書いてある。其を瓦斯燈や電氣燈で、
四邊眩い大廣間で歌ふ處か、寧ろこれを疾呼絶叫した
といふのは、當日の大出來でした、呵々。兎に角此級

ちらに古代希臘羅馬の家庭が、いかにてかも……
して、かの待客の懇切なりしかを知ることを得べし。
されどわが玆に述べんと欲する處は、基督教信者の
歓待に關して也。信者の歓待は、その家庭の成立と共
……のこと…、その家族たるものが、旅人

な組の代表物を幾線にも切つて　銘々一本宛紐して分配しました。折にふれて最早地質を失つ端を出しては打眺め、過ぎし昔を打偲びて、嘗去年今夜侍清涼」でもないが、何となく當年の心に操返し、悲喜こもごも往來するのは、何人もさう。

家庭

歓待

デヤリング夫人

はすべての時代に於て、最も尊貴にして、また雅なる諸德中の一に數へられたり。古代希臘羅馬は、その源を家族に發せり。家族の存在は、愛の存在を示す。古典を一瞥すれば、我等は直

されどわが茲に述べんと欲する處は、吾曹基督信者の歓待に關して也。信者の歓待は、その家庭の成立と共に行はるべきものにして、その家族たるものが、旅人もしくは來客に對して、その所有を分ち、これを歡遇することを勉むべきは、いふ迄もなし。この歓待が、かくまで尊貴なる德とせらるゝ理由の一は、これが利己心を混へざるの點にあり。

まことの歓待は與ふるにあらずして、頒つに在り。賜物には、これに報酬の念の伴ふことしばしばなるを見る。されど歓待に於ては、全くかゝる利己心の混在するものなし、この世にいともうるはしき我等の家庭を打開いて、たび人、迷者、たゞしは親しき友を迎へその平和と幸福とを彼等と共に分つ、豈に一大樂事にあらずや。

われは日本の姉妹諸子に忠告を試みたき一事あり。我等はすべて友人に對し、常におのが實力以上の歓待

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

過分の財貨を消費することあるが、これ獨りる習癖たるのみならず、客をしてしば〳〵不愉を惹起せしむ。

理想の歟待法をいへば、來客に接して、その家平素の生活を改めず、馳走其他すべて、また平にするに在り。これ客に對して、少しも尊敬懇を損するものにあらず。

の待遇、愛のこゝろより出でざるべからず。客し我等が家庭の慰樂を頒つに當りて、客がその以て、我等の身分に相應せるものなることを知は、氣毒におもふが如きことなく、よくその慰受することを得べし。客の居室は清潔にして、事に至るまで便宜なるやう注意し、成るべく、さすべし。花の二三枝、盆栽などもまた室の清ふるに宜し。食事は佳味なるは好けれど、奢侈ぬやうありたし。殊に客をして、その逗留中、

むべし。

わが知人の中に、客を歟待するに當りて、日常の家事を廢して、全くその時間を客のために献げざれば安んせざるものありき、されどわが考ふる所を以てすれば、主人主婦たるものが、いつもの如く家事を營みて客を自由にさすることは、最も歟待の法を得たるもの也。來客によりて、家庭生活の幸福を破壞せらるゝが如きはあるまじきことにあらずや。友人一週間の逗留のために、その家の主婦が、全く疲勞倦怠して、彼が立去りたる後、ほつと一息するといふが如きことは、しば〳〵目覩する所也。

日本人が待客の親切にして、注意周到なることは何人も知る處也。何時訪問しても、茶の一杯は必ず出づ然かも乞ふ苦言を述べしめよ、茶位はまだしもなれど、日本の人々が、親戚友人を歡待するがために、身分不相應の失費をも厭はざるは、心得違といふの外な

れ來客に接して、折惡しく菓子の
女を走らし、或は自身往いて買ひ來るなども
とゝ想はる。先づ親切に客を迎へ、簡易に出
茶でも出さば、それにて結構也。さす

點に於ては、全く家族の一人として取扱はれ、食事の
如きも質素なれど、料理方極めて優佳にして、まずき
西洋料理よりも、遙に甘味なるを覺えたり。またわが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とゝ想はる。先づ親切に客を迎へ、簡易に出しき御茶でも出せば、それにて結構也。さすとりても、至つて氣安くして宜し。一日大坂る家族を訪問し、三十分間にて歸る積なりしはわが頻に請ふ處あるにも係らず、歡待の意遠かに見事なる馳走を設けたれば、そのための訪問を二時間程に長くするの止むを得ざる。その馳走は、われに對し、親切なる歡待のに相違なし、されどわれはこの長時間の訪問、他の友人との約束を履行すべき機を失する陷れり。されば不時の客に對しては、あり合饗して、これにて滿足するを便とす。

ある地方にある日本人の友を訪うて、その家に滯在したることあり。主人夫婦の厚遇至らぬ隈りしが、さりとてまた萬事極めて質素にして、る愉快を覺えたり。わが居室として與へられた如きも質素なれど、料理方極めて優佳にして、まずき西洋料理よりも、遙に甘味なるを覺えたり。またわが居室には、心をつくして、いろ〳〵のものを備ふ。机にはペンやインキを添へ、卷紙狀袋もその傍にあり。こゝかしこに据えたる二三の花瓶また美しく、いづこよりともなく來る芳香、室內の空氣を爽かならしむ。この家に、われには眼新しき一個の良風ありき。主人は極めて靜肅謙退のさまをもて、主婦に打ち向ひ、朝食の時に祝禱ををなさんことを請ひ、若くは晩禱の折に司會をなさんことを求む。その質朴にして優雅なる處、いかに堅固なる基督教的愛情の、夫婦の間を結合せるものあるかを察せしむるに足る。

姉妹諸子よ、かのベタニヤのマルタ、マリアが主イエスを歡待することを得たる特權を想ふ毎に、美望の至に堪へざるものあるべし。居室を整へ、これを打飾りて、その慕ひまつる主を迎ふ、二人のよろこび、そ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ずや。
揃んで再び我が希望をいはしめば、姉妹諸子が
すべき機會に接する時、願くは『爾曹がこの
なせるは、即ちわれになせる也』と主のいひ
言を想起せんことを。

記事

基督教女子青年會　昨年十一月廿五日大隈伯邸、同會發會式を擧ぐ、集るもの無慮五百餘名の及ぶ。只當日一場の高話を約せし大隈伯が微恙欠席せられたるは、我等が遺憾とする所也、さを以て、本會の發達を希望する旨傳へらる。この晴明、邸内の秋色、今正に佳也。式は元田博士の以て始まる。會長津田梅子女史本會發會式の挨、次に萬國女子青年會日本支部幹事マクドナ史及女子學院長にして矯風會長たる矢島楫子刀辭、次に元田博士は、一般青年會の歴史及目的を員長本多庸一氏の祝詞朗讀、東京基督教青年會長江原素六氏外二名の演説ありて式を終る。當日會員たるとを申込みたるもの殆んど百名に達したり。其他同會に賛成を表し、同情を寄せられたるもの甚だ多かりき。

●東京女子青年會の役員。　去月十一日の役員會に於ける撰擧の結果會長に津田梅子、副會長にバック夫人、會計掛に小幡夫人、記録通信掛に河井道子と決定す。當日出席したるもの九名にして、會の事業に就いて夫々協議を遂げ、本月より漸次着手する計畫也。また東京女子青年會員には、『明治の女子』を毎號一名一冊宛交付することに決議せり。

●バチルフエンド女史は毎月一回東京製糸會社を訪問するの例なるが、この頃女史はマクドナルド女史と共に同社を訪ひしに、かねて設けられたる集會所に、女工の集まるもの凡四百名、讃美歌を唱して、後講話をなせしに、何れも熱心にこれを聽き、幻燈の如きも深く注意してこれを見たり。同社役員の言に、この集會の創始せられてより以來、社内一般の風紀著しく進みたるを認むと。

ide by side if
sful, and so he
st interest the
tion work for
Greene closed
prayer, after
ere given an
as members,
were served.
s were given
many others
nd interest.
entirely in
have been
e of fulness
he magazine.
*
Board of the
's Christian
, December
bancho, the
ficers of the
-Miss Ume
Buck, vice
, Treasurer,
ecording and
ary. There
f the Board
r work were
hich will be
out after the
decided that
cal association
of the "Young
one of the pr-
hip.

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

autumn dress of crimson and yellow, the meeting was called together in a sort of arbor, and Dr Motoda formally opened the meeting with prayer. Miss Tsuda, the President of the Association spoke a few words of endorsation of the work, Miss A. C. Macdonald, the Executive Secretary of the National Committee, spoke very briefly, and Mrs. Yajima, Principal of the Joshi Gakuin, and President of the National Women's Christian Temperance Union, expressed her interest in and approval of the new undertaking. Dr Motoda then spoke at some length, and explained fully the history and scope of the association movement, and expressed his opinion of what he believed to be some of the features which the association in Japan might undertake. Among them were Christian boarding homes for young women, helping young women obtain employment, and work among the Chinese and Korean young women who are beginning to come to Japan.

Greetings were read from Mr. Honda, the president of the National Committee of Young Men's Christian Associations of Japan, who was unable to be present; after which Mr. Galen M. Fisher, of the Y. M. C. A, and Mr. Ebara M. P. President of the local Y. M. C. A in Tokyo spoke. The latter em-

must be carried on side by sid
either is to be successful, and s
welcomed with heartiest interest
beginnings of association work
young women. Dr Greene cl
the meeting with prayer, a
which those present were given
opportunity to enroll as memb
and tea and cake were ser
Nearly a hundred names were g
in as members, and many ot
expressed sympathy and inte
As the meeting was entirely
Japanese the speeches have
given with some degree of fu
in the Japanese part of the maga

* * * * * *

At a meeting of the Board o
Tokyo Young Women's Chri
Association on Monday, Decem
11th at 15. Dote Sanbancho,
following permanent officers of
Board were elected:—Miss
Tsuda, President, Mrs. Buck,
President, Mrs. Obata, Treas
Miss Michi Kawai, recording
corresponding Secretary. T
were nine members of the B
present, and plans for work
discussed, some of which wil
ready to be carried out after
New Year. It was decided
each member of the local associa
should receive a copy of the "Y
Women of Japan" as one of the
vileges of membership.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

by a mis-

holes and
ses of the
iven away.
the fat of
this. And
und which
es, in holes
s there are
and tigers
skill of the
est point in
th his long-
ng do you
ting more
evements in
ocks. And
th a beam-
suppressed
recognition
avest act of
and now do
s care of a
s a grander
ting him at
."
ointing the
cup running
d."
he beautiful
day. The
whole round
all the needs
care of the
psalm closes

shepherd stands and 'the rodding of the sheep' takes place. The shepherd stands turning his body to let the sheep pass; he is the door, as Christ said of himself. With his rod he holds back the sheep while he inspects them one by one as they pass into the fold. He has the horn filled with olive oil and he has cedar-tar, and he anoints a knee bruised on the rocks or a side scratched by thorns. And here comes one that is not bruised but is simply worn and exhausted; he bathes its face and head with the refreshing olive oil and he takes the large twohandled cup and dips it brimming full from the vessel of water provided for that purpose, and he lets the weary sheep drink. There is nothing finer in the psalm than this. God's care is not for the wounded only, but for the worn and weary also. 'He anointeth my

And then, when t
done and the sheep are su
the fold, what contentm
rest under the starry sk
comes the thought of deep
and comfort: 'Surely
and mercy shall follow m
days of my life,' as t
through all the wanderin
day now ended.

"The song dies away a
that God has watched a
breathes this grateful vow
roaming of the day is
sheep: 'I will—not shall
for it is a decision, a se
pose, a holy vow—I will d
house of the Lord forev
the song ends, and the she
rest, safe in the good
fold."

Do you wonder that e
that night we have called
The Song of Our Syrian C

ASSOCIATION NOTES.

Those specially interested in the development of the Young Women's Christian Association will be glad to learn that the opening meeting of the newly organized Tokyo Association held in the garden of Count Okuma on Nov. 25th was attended by more than five hundred people. There were probably three hundred young women representing the various government and public

schools of the city as we
representative ladies who
terested. The day was
and the only fly in the oin
due to the fact that Coun
who had been good enoug
sent to be present and s
ill and could not atten
however, sent his greet
best wishes for the succe
new association. After t

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

He sat in silence a moment musing as if the sound was in his ear.

With quiet animation he lifted his thin hand and continued: "Now here is where you drop the shepherd figure and put in a banquet and so lose the fine climax of completeness in the shepherd's care." It need not be said that we were eager listeners now, for our guest was all aglow with memories of his far-off home-land and we felt that we were about to see new rays of light flash from this rarest gem in the songtreasury of the world.

"Thou preparest a table before me—in the presence of mine enemies." In the same hushed voice in which he quoted these words he added: "Ah, to think that the shepherd's highest skill and heroism should be lost from view as the psalm begins to sing of it, and only an indoor banquet thought of!" Again he sat in silence a moment. Then he said:

"There is no higher task of the shepherd in my country than to go from time to time to study places and examine the grass and find a good and safe feeding place for his sheep. All his skill and often great heroism are called for. There are many poisonous plants in the grass and the shepherd must find and avoid them. A cousin of mine once

lost three hundred sheep by a
take in this hard task.

"Then there are snake holes
the snakes bite the noses of
sheep if they be not driven a
The shepherd must burn the f
hogs at the holes to do this.
around the feeding-ground w
the shepherd thus prepares, in l
and caves in the hillsides there
jackals, wolves, hyenas, and t
too, and the bravery and skill o
shepherd are at the highest poi
closing up these dens with his l
bladed knife. Of nothing do
hear shepherds boasting r
proudly than of their achievemen
this part of their care of flocks.
now," he exclaimed with a b
ing countenance and suppre
feeling as if pleading for recogn
of the lone shepherd's bravest a
devotion to his sheep, "and no
you not see that God's care
man out in the world is a gra
thought than that of seating hi
an indoor banquet table."

"But what about anointing
head with oil and the cup run
over? Go on my friend."

"O, there begins the beau
picture at the end of the day.
psalm has sung of the whole r
of the day's wandering, all the r
of the sheep, all the care o
shepherd. Now the psalm c

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てして自ら
して一層神
念を去り、
、而して耶
督忠實なる
しむべし。
、更に爾を
を見れば、
勉むるもの
るまし給ふ
し。また我
めに抱く希
ために保ち
大なるもの
我儕稱へら
を得、これ
愛ぞ』。

際して、い
ふるとも、
の力に依り、
を繼いで、
くんば、ま
我等は年に
に、四六時
れば我等が
によりて成
で、近く今
力ある決心
にて爲さる
等はかして
ろこびと、
斯くの如く
めがたくも、
『仁愛、喜
、良善、忠
き、玆に爾
るるを見る
が日々に靄
これ神の約
以上、また
なし。これ

Oh! ask not thou,
How shall I bear the burden of to-morrow?
Sufficient for the day, its care, its evil, and its sorrow:
God imparteth by the way
Strength sufficient for the day.

Added to his daily promise is the promise of his presence. "Lo, I am with you all the days." His presence is the secret of a new life, and the promise of a growth in grace, during the coming year. Let us enter the new year, not with many resolutions, but with the one which is all inclusive, that He who is our Saviour, may daily be our Complete Life. "If any one is in Christ, he is a new creature. Old things are passed away, behold they are become new."

道ふことなかれ、
明日の重荷をいかに
うれへも、禍も、かなし
その日にて足れり。
神はその日のために、
不足なき力を與へた

この日毎の約束に加へ
常に我等と共に在ること
へり。『それ我は常に爾曹
ぞ也』。主の偕在は、我等
生命に入るの道にして、
の間、神の恩寵の裡に、
長すべきことを約するも
この新春を迎ふるに臨み
等をして、くさぐさの決
ことなく、只救主基督が
我等の完き生活となるべ
覺悟をなさしめよ。『人キ
在る時は、新に造られた
は去りて、みな新しくな

THE NEW YEAR.

He came to my desk with quivering lip,
The lesson was done:
"Dear teacher, I want a new leaf," he said,
"I have spoiled this one."
I took the old leaf stained and blotted,
And gave him a new one all unspotted,
And into his sad eyes smiled;
"Do better now, my child."

I came to the throne with
The old year was done:
"Dear Father, I want a
"I have spoiled this one."
In place of the old leaf st
He gave me a new one all
And into my sad heart
"Do better now, my c
Sel

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

wish it. A closer walk with God, a development of character which will make us less selfish, happier, steadier, and truer to the highest claims of Jesus Christ. This much we know, that He has promised to be always with those who strive to follow Him, for He has said, "I will never leave thee, nor forsake thee." This much we also know that He is more ambitious for us than we are for ourselves, for "behold what manner of love the Father hath bestowed upon us that we should be called children of God, and such we are."

But however sincerely we make new Year's resolutions they are of little avail if day by day, indeed hour by hour, the resolutions are not re-made, not of ourselves but in His strength. We do not live by the Year, but daily and hourly, and our chief concern is not of what the year will bring, but of what to-day has brought. The resolutions that count are those made daily at a throne of grace, where we ask for daily strength and joy and service. Then will the year bring forth the fruit of the spirit, growing, although imperceptibly, every day, "love, joy, peace, longsuffering, kindness, goodness, faithfulness, meekness, self-control." "As thy day. so shall thy strength be" is as far as

一事を知る、即ち我等にして欲せば、將來は我等をして一に近づき、一層利己の念を去更に幸福に、更に堅固に、而し蘇基督の最高要求に一層忠實べき人格の發展を遂げしむべ主が『われ爾を去らず、更に棄てじ』といひ給ひしを見れ凡そ彼に從はんことを勉むるには、主がこれと共にゐましべきことはいふ迄もなし。ま等は、自らおのれのために抱望よりも、主が我等のために給ふ希望の、更に一層大なるある知る。『爾曹視よ、我儕稱れて、神の子たることを得、父の我儕に賜ふ何等の愛ぞ』。

されど我等は新年に際してかに誠實なる決心を搆ふるともし己れに頼らで、神の力に依日に日を繼ぎ、時に時を繼いその決心を新にするなくんばた何の功果かあらん。我等はよりて生活せず、日毎に、四中生活するもの也。されば我最も關心する處は、歳によりさるる處のものにあらで、近日の事功如何に在り。力あるは、日々めぐみのみ座にて爲る處のものをいふ。我等はかにて、日毎に、力とよろこびかつ務とを求む。それ斯くのんば、直ちにそれと認めがたく日々生長しゆく靈の果『仁愛樂、平和、忍耐、慈悲、良善信、温柔、樽節』の如き、玆めて、歳によりて齎さるるをべし。『汝の能力は、汝が日々むる處に循はん』と、これ神束の範圍也。これより以上、更に擴大せらるるの要なし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. II January, 1906

. 9
rgan of
hristian
a copy.
organ-
lectual,
and by
upbuild
Young
.
iton.
elps.
uh.
ki.
oper.
Kawai.
tee.

"ALL THINGS NEW."

With the new Year, one's mind naturally turns to the future. The beginning of the Year does mark another milestone in our journey through life, and we do well to stop a moment to see the way by which we have come, before stepping once more into the untried future. We do well to consider whether we have walked as carefully the pathway as we might have done, "Look therefore carefully how ye walk, not as unwise, but as wise; redeeming the time, because the days are evil." There is no doubt that the past Year has taught us many lessons of our liability to fail, our tendency to falter, our lack of courage to undertake for our Master. Or perhaps we have relied on our own strength, and thought it well to go ahead without consulting Him. But if we are earnest we have learned by our mistakes, and the Year is gone, and can only be redeemed as we live the next Year on a higher and truer plane. "Forgetting the things that are behind, let us press forward."

『萬事新也

歳新なると共に、人の
將來に向ふ。元旦は吾
に、又更に一個の里標を
の也。されば我等は、ま
見ぬ將來に入らんとする
暫く歩を停めて、越方の
するを善とす。その通過
今顧みて、果して遺憾な
や否や、これ考ふべきこ
れば爾曹つつしみて、行
べし。智らざるものの如
智者の如くして、機を窺
これ時惡しければ也』。過
は、我等に與ふるに、
失敗、陥りやすき逡巡、主
爲すべき勇氣の缺乏に關
くの教訓を以てしたるや
或は恐る、我等は主のみ
がふことなく、己れの力
只管勇往直前するを良し
にはあらざるなきか。さ
誠實にして、おのが錯誤
學ぶ處あり。今や舊歳既
れば、我等は次年ひとし
る、ひとしほ眞摯なる地
て、これを回復するの一
見るのみ。『後にあるも
前にあるもの望む』、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Young Women of Japan

Vol. II January 1906 No. 9

The "Young Women of Japan" is the official organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan. Price 50 sen a year, or 5 sen a copy. Address 15 Dote Sambancho, Kojimachi, Tokyo.

The Young Women's Christian Association is an organization which stands for the physical, social, intellectual, and spiritual development of all Young Women, and by many methods consistent with such an aim, seeks to upbuild an all-round Christian Womanhood.

The members of the National Committee of the Young Women's Christian Associations of Japan:—

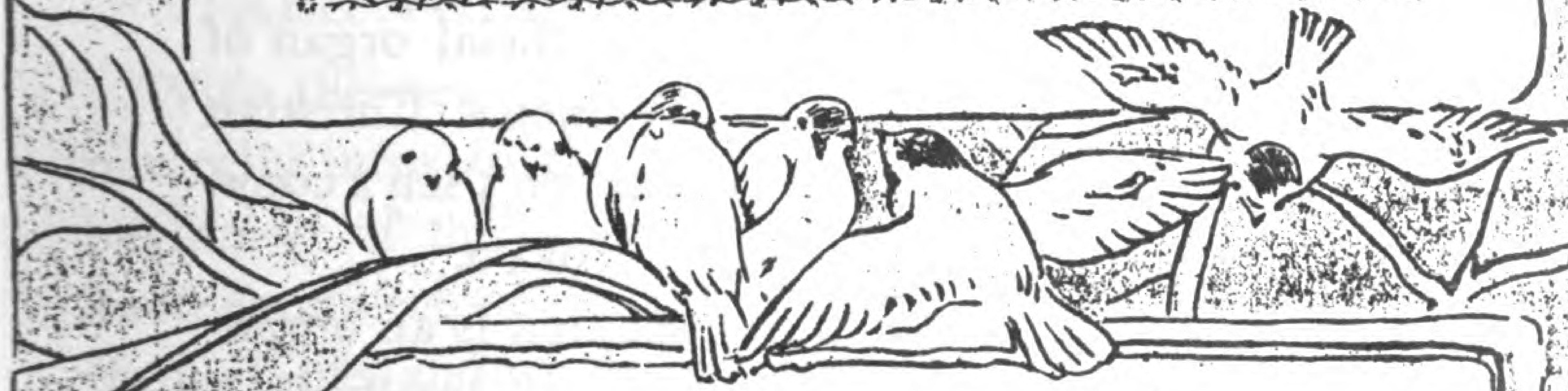
Miss M. A. Whitman, Chairman.
Miss Amy G. Lewis, Secretary.
Miss Ume Tsuda.
Miss A. B. West.
Mrs. G. K. Hanai.
Miss H. J. Worthington.
Mrs. V. W. Helm.
Mrs. G. M. Fisher.
Miss Kin Sato.
Miss L. Hamilton.
Mrs. G. S. Phelps.
Miss L. Zurfluh.
Mrs. H. Kozaki.
Miss S. Ellis.
Miss E. M. Soper.
Miss Michi Kawai.

Miss A. Caroline Macdonald.
Executive Secretary of the National Committee.

治三十七年五月七日第三種郵便物認可

A New Year's Motto.

If any man is in Christ, he is a new creature: old things are passed away; behold they are become new. II Cor. 5: 17.



Vol. II January 1906 No. 9

YOUNG WOMEN OF JAPAN

CONTENTS.

English.
"All Things New." — Editor.
The New Year.
The Song of Our Syrian Gest. — W. A. Knight.
Association Notes.
Japanese.
Bible Notes — Miss A. C. Macdonald.
Victorious Song — Rev. M. Uemura.
Greetings at the Opening meeting of the Tokyo Y. W. C. A.
Miss U. Tsuda.
Count S. Okuma.
S. Ebara.
Y. Honda.
Mrs. K. Yajima.
Miss M. Kawai.
College Life in America. (3) — Mrs. J. D. Dearing.
Hospitality

15 Dote Sambancho, Kojimachi, Tokyo.

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA